

2026 年度
上宮学園中学校
入学考查問題
(1 次入試一般学力型午前)

国語

(注意)

- (1) この問題用紙は、「開始」の放送があるまで開いてはいけません。
- (2) 問題は 一 から 三 まであります。試験時間は 50 分です。
- (3) 解答用紙は別に 1 枚あります。
- (4) 解答用紙には、必ず受験番号・名前を記入しなさい。
- (5) 「終了」^{しゅうりょう}の放送で、筆記用具を置きなさい。

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「わたし」の家の隣となりには、ネパール人のサリタちゃんがいる。サリタちゃんはまだ日本になじめておらず、日本語の理解も難しい。ある日、震度4の地震しんどが発生し、サリタちゃんのこと心配になった「わたし」は、サリタちゃんをばげまそうと、笑顔で「だいたいぶだよ」と声をかけたが、サリタちゃんは「笑われた」と感じて怒おこってしまった。そこで、友達の光ひかりちゃんの知り合いである、料理が得意な「がみババ先生」に相談にやって来た。

「サリタちゃんに、非常食を作ってあげたいんです。これからの備えにも、お守りにもなるように。それを渡わたして、仲直りできたらいいなっ
て思っ

て」と、がみババ先生は片眉かたまゆを上げた。

「仲直りするの、手土産てみやげが必要なのかい？」

「えっ？」

「これをあなたに差し上げますので、その代わり一つよろしくってか。ごめんって言うだけじゃだめなのかい」

①「そういうつもりじゃないですけど……ごめんなさいだけだと、わかってもらえないかもしれないし」

わたしの言葉より、作った料理のほうが、わたしの気持ちを伝えてくれそうな気がする。

「ふうん」

興味なさそうに、がみババ先生は頬杖ほおづえをつく。

この前も思ったけれど、わたしに料理を教えるのは気が進まないんだろうか。申し訳なくなって、わたしは下を向いた。

「本当は、お父さんとかお母さんに料理を教えてもらえたらいいんですけど」

【ア】

「なんでもかんでも家族だけで解決する必要はないだろ」

がみババ先生は腕組うでぐみすると、長いイキあを吐はいて立ち上がった。

「サリタの食べられないものとか、アレルギーはあるかとか、そのへんはわかってんのかい？」

「ええと、ネパールの人は牛と豚ぶたを食べない人が多いって本に書いてありました。水牛なら食べるそうです。あと、わたしのお母さんが聞いてくれたんですけど、サリタちゃんにアレルギーはないみたいです」

【イ】

「非常食、非常食ね。まあ、ちょうどいいか。教えてやるよ」

「え、本当ですか？」

「ああ。でも、X。一仕事してもらおうよ」

がみババ先生は（A）笑って、わたしを見下ろした。

連れていかれたのは、お店の裏に広がる庭だった。

がみババ先生の台所のマドいから見えていた庭だ。草が生え放題で、その中で青い小さな花が建物の壁かべにソううように咲きいている。野性味あふれる雰囲気ふんいきで、手入れはあまりされていない。

草を刈かってきれいにしして、もっというんな種類の花を植えてあげて、それから白い丸テーブルといすを置いたら、おしやれな裏庭になりそうなのにな。

「ほら、ここだよ」

地面に並べられたレンガをまたいで、がみババ先生は一本の木②のそばに立った。（B）葉をしげらせて、四方に枝を伸のばした、がみババ先生の身長より高い木。

「これは、なんの木ですか？」

「ブルーベリーだよ」

そう言つて、がみババ先生は親しみをこめた手つきで葉に触れた。

「りっぱなもんだろう？　ここまで大きく堂々と育ったブルーベリーの木はそうそう見ないよ。今年は実が大豊作で、一人じゃ採っても採ってもおつつかない」

「じゃあ仕事つて、ブルーベリー摘みですか？」

がみババ先生は「そうだよ」とうなずくと、勝手口から家の中に入って、大きなボウルとタオル、それに麦わら帽子を持ってきた。

「摘んだ実はこのボウルに入れるんだ。タオルは首に引っかけといて汗をふきな。暑いからちゃんと帽子もかぶるんだよ。サイズは合わないかもしれないけど、がまんするんだね」

「あ、はい」

【ウ】

「わかったら、とつと仕事を始めな」

しつしつと手を振つて、がみババ先生は去っていく。

料理を教わる前に、仕事かあ。

ここでも雑用^aが回ってくるなんて。でも、草むしりをさせられるよりはまだましかも。

わたしはボウルを抱えて木に近づいた。甘い^{あま}においにひかれたのか、木の周りをハチがぶんぶん飛んでいる。近くで見る葉は青々としていて、枝には実が鈴^注なりだ。指先にちよつと力を入れるだけですぐにぼろりと落ちてくる、ぷつくりと丸い青紫色^{あおむらさきいろ}の実。

ブルーベリーって、こんなに大きかったつけ。食べたことはあるけれど、どんな木に、どんなふうになっているのかも知らなかった。

実を摘む感覚が気持ちよくて、どんどん手を動かす。途中で数粒^{とちゆうすつぷ}食べてみると、皮がプチツとはじけて、したたるような甘さと、さわやか

な酸味が口の中に広がった。

うわあ、おいしい。

たまにつまみ食いしながら、ボウルに半分ほどブルーベリーがたまったころ、

「おい、そろそろ休憩きゆうけいにしま

がみババ先生が出てきて、わたしにサイダーの缶かんを手渡てわたした。これ以上ないくらいに冷えたサイダーの、ぱちぱち弾はじけるのどごしに、ぎゅつと目をつぶる。

「ブルーベリーは食べてみたいかい？」

「はい、甘酸あまずっぱくておいしかったです。この木はがみババ先生が植えたんですか？」

「いいや、植えたのはあたしの友だちだよ。もう十年以上前になるかね」

ふっと笑って、がみババ先生は目を細めた。

「あの子がブルーベリーの苗木なえぎを持ってきて、ここの裏庭に植えさせてくれて頼たのんできたんだ。それなら自分んちの庭に植えて、孫のちびどもと実を摘めばいいじゃないかって言ったんだけど、ここがいいって聞かなくてね。『わたしの秘密基地を作るんだから』って」

ブルーベリーの木に語りかけるように、がみババ先生は続けた。

「ま、その気持ちはわかるけどね。学校や家以外にも、自分の基地とか、居場所があるといいと思うよ。心に余裕よゆうを持つためにもね」

「あの子のことだから、気になってちよいちよい来てると思うよ。あたしにや見えないけどね」

「見えない？」

【エ】

「ああ。今はあの世にいるから」

（ C ）がみババ先生が言う。でも、悲しい響きはなかった。お別れをしたんじゃなくて、友だちがちよつと遠くに引越したというよ
うな自然な口調だった。

「あ、その友だちって、光ちゃんのおばあちゃん？ どうやって仲よくなったんですか？」
やっぱり、料理がきっかけだったんだろうか。期待してたずねると、

「そうだけど、特別なことはしちやいないよ。いろんなことを話すうちに仲よくなったんだ」
と、がみババ先生はそつけなく答えた。

「ええと、じゃあ、けんかをしたことはありますか？」

「そりゃあったよ。そのときもいろいろ話をして、仲直りした」

あれ、料理のエピソードが出てこない。首をかしげていると、がみババ先生はにやりとした。

「あたしの答えは期待に添えなかったようだねえ」

「え、いえ、そんな」

「あんたみたいに料理で気持ちを伝えようとするのも悪かないよ。だけどね、料理に頼りすぎるな。大事なことは自分の口で言いな。でない
と、相手にきちんと届かないよ」

心の中を見透かされたようで、（ D ）する。

「でも、相手は外国人の子だし、言葉が」

「あのねえ」がみババ先生はわたしをさえぎって続けた。

「世界にはたくさん国があつて、そこで生きる人間がいる。言語もシユウカンもさまざまだ。それでも、『ありがとう』と『ごめんなさい』
の気持ちを知らないやつはいないはずだよ」

わたしの手から空になったサイダーの缶を奪うと、がみババ先生はずんずん去っていく。

しっかりと励まされたような、甘えるなど突き放されたような。複雑な気分で、わたしはボウルの中のブルーベリーを一粒つまんで口に含んだ。

(落合 由佳『要の台所』による)

注 鈴なり：果物などが、たくさん実っていること。

問1 — 線部あゝえのカタカナを、それぞれ漢字に直して答えなさい。

問2 (A) (D) に入る言葉としてふさわしいものを、次の中から一つずつ選んで、それぞれ記号で答えなさい。(一語一回に限ります。)

ア こんもりと イ ぎくりと ウ じっくりと

エ にやりと オ ふわりと カ さらりと

問3 — 線部①「そういうつもり」とありますが、それはどういう気持ちですか。その内容を説明した次の文の1・2に入る言葉を1・2とも七字以内で答えなさい。(句読点も一字に数えます。)

1

ことによってサリタちゃんの機嫌をとって、

2

という気持ち。

1

2

に

問4 X に入る言葉としてふさわしいものを、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 非常食なんか食べないだろう

イ 今年はブルーベリーが豊作なんだ

ウ ただというわけにはいかないね

エ サリタちゃんに気持ちを伝えなきゃならないんだろ

問5 — 線部②「一本の木」とありますが、この木について説明した次の文の 1 く 3 に入る言葉を 1 は十一字、

2 は三字、 3 は九字で、文中からぬき出してそれぞれ答えなさい。(句読点も一字に数えます。)

1 が、自分の 2 を作りたいと考えて、がみババ先生の裏庭に植えた 3 が成長した木。

問6 — 線部 a「雑用」、b「そっけなく」の文中での意味としてふさわしいものを、次の中から一つずつ選んで、それぞれ記号で答えなさい。

a「雑用」

ア 長時間かかる仕事
イ こまごまとした仕事
ウ 専門的な仕事
エ 毎日やるべき仕事

b「そっけなく」

ア 愛想がない口調で
イ はずかしそうな口調で
ウ 泣き出しそうな口調で
エ 怒ったような口調で

問7 — 線部③「ちよつと」が、修飾している語としてふさわしいものを、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 指先に イ 力を ウ 入れる エ だけで オ ぼろりと カ 落ちて キ くる

問8 — 線部④「言葉が」とありますが、このあと「わたし」は何と言いたかったのですか。「言葉が」に続くように二十五字以内で答えなさい。ただし、「気持ち」という言葉を使うこと。

問9 本文の内容としてふさわしいものを、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア がみババ先生は、「わたし」が両親に相談せず自分を頼ってきたことに腹を立てていた。

イ がみババ先生の家の裏庭は、青い小さな花が建物の壁をおおうように咲いているおしゃれな場所だった。

ウ 「わたし」は、ブルーベリーを摘む仕事をいやいややっていたが、その実はおいしかったので数粒食べた。

エ がみババ先生は、世界中の人々がみんな感謝する気持ちや謝罪する気持ちを持っていると思っている。

問10 次の文を本文に入れるとしたらどこに入りますか。文中の「ア」く「エ」から一つ選んで、記号で答えなさい。

「答えると、ふむ、とがみババ先生はうなずいた。」

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「私たち生きもの」という仲間として、^①さまざまな生きものたちがそれぞれに生きているのが地球という星です。私たちでありながら決して皆が同じではなく、アリはアリらしく、ライオンはライオンらしく生きているという多様性が「私たち生きもの」の特徴です。しかも一方ですべての生きものがつながりを持ち、私という存在が孤立したものであることは存在し得ないつながりがあります。私たち人間もその中で生きているのです。

生きものとしての私たち人間の出発点は森ですが、その森を出て暮らし始めたところに特徴があります。近い仲間であるチンパンジー、ボノボ、ゴリラ、オランウータンは今も森の生活を続けており、その暮らしは恐らく人類と分かれた時と変わらないでしょう。森を出たことが今の科学技術文明社会にまでつながるのですが、森が故郷であることは今も変わりません。(A)、現代の生き方、とくに都市生活は、それをすっかり忘れています。^②それでよいのだろうかという問いを持ちながら、人類の歩んだ道を見ていきます。

^③生きものの特徴は、古い時代のことを忘れない、古いものを捨てない、というところにあります。生きものは進化をし、しかも水から離れて上陸をただけでなく、空へも飛び出すなど挑戦を続けてきました。けれども、今の生きものにとって水は不可欠です。この性質は生きものすべてに共通であり、これからも失われることはないでしょう。DNAのはたらき方がすべての生きもので共通であることはすでに述べました。40億年の間、基本を変えずにこれだけ多様化し、新しい生き方を獲得してきた生きもののシステムには、学ぶことがたくさんあります。

一方、現代社会の技術では、新バージョンは古いものとの共通性を捨てることをよしとします。積み重ねではなく切り捨てであり、それは私たち現代人の意識に大きな影響を与えています。(B)、^④縄文人のことを語る時、その人たちを現代人より劣った別の存在と位置づけていないでしょうか。石器を用いている人よりコンピュータを使いこなしている人の方が優れているのだと思っ

ていないでしょうか。生きものとしては、まったく同じ細胞がはたらいっており、脳の構造も機能も基本は変わっていません。自然への対応を見れば、縄文時代の人の方が、日常出会う動物や身近な植物に関する知識は、都会暮らしのわたしより豊かだったでしょうし、それらへの対応能力は優れていたに違いありません。ここには、学ぶところがたくさんあるはずです。性能のよりよい機械を求め、古い機械を捨てていくのと同じ感覚で古代

の人を見下すのは間違っています。考え方を⑤型でなく生きもの型にしましょう。

ここで、森を出るといふ霊長類^{れいちょうるい}としては特別な生き方を始めた人類の誕生を見ていきます。アフリカの森で暮らすチンパンジーとの共通祖先から人類（生物学ではヒトと呼ぶ）へと進化する物語は、今から700万年ほど前に始まったとされます。ゲノム（細胞にある全DNA）解析で、チンパンジーが一番ヒトに近く、700万年ほど前に分かれ、ゴリラは900万年ほど前に分岐^{ぶんぎ}したということがわかりました。

チンパンジーとヒトのゲノムの差はわずか1・2%であり、（C）これぞヒトをヒトたらしめているという遺伝子が見出されてはいません。全体としては明らかに違うのに、部分の違いでは説明できないのです。生きものは、それぞれ特徴がありながら、地続きなもの、全体で捉えるものなのだとわかります。

一方、化石から知られる特徴には、二足歩行とそれに伴う^{ともな}身体^{しんたい}の変化と小さな犬歯があります。なぜ私たちの祖先は直立二足歩行を始めたのか。これはさまざまな状況証拠^{じょうきょうしんこ}から考える他ありませんので、いくつかの説があり、これぞという決定版があるわけではありません。その中で、比較^{ひかくてき}的多くの専門家が認めており、わたしも好きな説^⑦があります。

チンパンジーも含めて動物の多くは犬歯が発達しており、時には牙^{きば}にもなっています。これは戦いに役立ちます。つまり犬歯が小さいということは、けんかが強くないということです。他の動物との争いは避^さけたでしょうし、仲間内でも力での戦いはあまりなかったでしょう。弱い人間は、家族やそれが集まった集団をつくって暮らしていました。

そんな祖先が暮らしていたアフリカの森は、果物などの食べものが豊富な場所でした。ところが1000万年前頃^{ころ}からアフリカが少しずつ乾燥^{かんそう}した気候になり始めたらしいのです。森林だったところが森林と草原の混じる場^ばに変わっていききました。植生も変化し、食べものが以前よりも少なくなったので、広範囲^{こうはんい}を探し歩かなければなりません。犬歯が小さく弱いヒトの仲間は、食べものの豊かな場所から追い出されたでしょう。森の端^{はし}や草原に出て行くことになり、食べものを遠くまで探しに行かなければならなかったのです。

そこで、果物などを採ったオスが立ち上がってそれを手にのせ、離れたところにいる子どもを抱^{かか}えたメスのところまで運んだのが二足歩行

のきっかけだということです。その様子を思い浮かべると愛おしくなり、家族を大事にする気持ちに思い入れをしてしまいます。犬歯が小さくちよつと弱虫だったからということも含めて好きな説です。

弱いというマイナスのイメージが浮かびますが、今でも強引な強者より弱い人の方が、なんとかしようとおれこれ工夫をして新しい可能性を生み出すことがあります。弱いのは悪くありません。けんかもあまりなかったでしょう。この頃の脳の大きさは他の類人猿と変わりませんが、私たちの祖先はよい特徴を手に入れました。家族、時にはもう少し広い意味での仲間のいる、人間らしい暮らしの始まりです。

(中村 桂子『人類はどこで間違えたのか』による)

問1 (A) (C) に入る言葉としてふさわしいものを、次の中から一つずつ選んで、それぞれ記号で答えなさい。(一語一回に限ります。)

ア しかも イ ところで ウ および エ あるいは オ ところが カ たとえば

問2 — 線部①「さまざまな生きものたちがそれぞれに生きている」とありますが、これとほぼ同じ意味を表す言葉を文中から二十六字でぬき出して、最初と最後の五字を答えなさい。(句読点も一字に数えます。)

問3 — 線部②「それ」が表す内容を、四十字以内で答えなさい。(句読点も一字に数えます。)

問4 — 線部③「生きものの特徴は、古い時代のことを忘れない、古いものを捨てない、というところにあります」とありますが、この内容としてふさわしいものを、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 水から離れて上陸したこと。

イ 空へ飛び出す挑戦をしたこと。

ウ 生きものは水が不可欠なこと。

エ 40億年の間で多様化したこと。

問5 — 線部④「縄文人」に対して筆者が持っている考えとしてふさわしくないものを、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 石器を使用するしかできなかった縄文人は現代人より劣った存在である。

イ 縄文人の脳の構造や機能は基本的に現代人と同じである。

ウ 身近な動物や植物の知識は現代人よりも豊かだった。

エ 縄文人の動植物への対応能力には学ぶことが多い。

問6 文中の⑤に入る言葉としてふさわしいものを、文中から二字でぬき出して答えなさい。

問7 — 線部⑥「身体」と同じ成り立ちの熟語を、次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 飲食 イ 予知 ウ 読書 エ 不安 オ 生活

問8 — 線部⑦「わたしも好きな説」とありますが、その内容を説明した次の文の①・②に入る言葉を①は文中

から十八字でぬき出して、②は「家族」という言葉を使って十五字以内で答えなさい。（句読点も一字に数えます。）

環境が変化して食べ物かんきょうが以前より少なくなった。ヒトの仲間は①ため、食べ物かんきょうを遠くまで探しに行かなければならなくな
った。そういう状況で、離れたところにいる②ため、オスは立ち上がってそれを手にのせるようになったという説。

【三】 次の1～10の（ ）に漢字一字を入れ、下の意味に合うように四字熟語を完成させなさい。

- 1 一部（ ）終……物事の最初から最後まで。
- 2 一日千（ ）……一日をととても長く感じてしまうくらい、待ち遠しいこと。
- 3 賛否両（ ）……賛成と反対の意見が分かれている状態。
- 4 大同小（ ）……だいたいは同じだが細かい点に違いがあること。
- 5 得意満（ ）……事が思い通りに運び、誇らしさが顔全体に現れる様子。
- 6 適材適（ ）……人の地位や能力に応じて、ふさわしい地位や仕事につかせること。
- 7 花鳥（ ）月……自然の美しい景色。
- 8 朝（ ）暮四……目先の違いにとらわれて、結局同じ結果であることを理解しないこと。
- 9 一進一（ ）……事態が良くなったり悪くなったりすること。
- 10 行雲流水（ ）……深く物事に執着しゅうちやくしないで自然の成り行きにまかせて行動すること。